

十七年十一月十三日
賜光旭日章

卷四

廿

者十餘名花房公使以下僕カニ身ヲ以テ免カレ幸ニ英艦飛魚
號ノ救助ヲ得テ長崎ニ歸着シタルハ同月三十日ノ事ナリ我
日本政府ハ此報知ナ得ルト齊シク廟議開決中間僕カニ二日
ノ猶豫ナ以テ八月二日ニハ井上外務卿ガ馬關出張ノ途ニ上
ルアリ數艘ノ軍艦ヘ既ニ其前日ニ西朝鮮ヘ向ケ解纜シタル
ニ訓令ヲ傳ヘ一大隊ノ護衛兵ヲ率ヒテ其月ノ十五日ニ再ビ
仁川ニ上陸セシムタルマデハ其手廻ハレ亦決シテ退カフザ
リシモノト云フベシ然ルニ此事變ニ報知一度東京ニ來リ更
ニ傳ヘテ北京ニ至ルヤ支那政府ノ舉動ノ活潑ナル一意人後
ニ立ツチ慷慨セザルノ趣アリテ昂クモ支那軍艦ノ仁川ニ
來ルアリ又去リテ天津ニ歸ルアリ十日ナ出デズシテ九艘ノ
軍艦三千ノ陸兵ヲ搭載シテ南陽ニ來着シ兵士ハ直ナニ上陸
セテ野營ヲ張リクリ然レニ此時ハ花房公使カ護衛兵ヲ率ヒ
テ既ニ京城ニ入り朝鮮政府ト談判最中ナリシナ以テ別ニ支
那兵ノ撃チ奉グ所ナカリト雖ニ八月廿三日ニ我公使
ガ朝鮮政府ト談判不調ノ故ナ以テ京城ヲ引揚ゲ仁川ニ歸ル
ニ及ビテ京畿ノ支那兵ハ差管ハリ亞京城ニ入り城門ヲ固メ
王宮ヲ衛リ大院君ヲ執ヘテ天津ニ送リ朝鮮政府ニ指圖シテ
日本公使ノ跡ヲ追ヒ再ビ談判ナ開カシメ公使ガ要求スルマ
ニ五十萬圓ノ償金ヲ拂ハシメタルハ其所業ノ公法ニコソ
戻ル所アレ實際ノ成跡ハ人目ナ眩耀スルニ餘リアリタリ追
テ花房公使が如ク支那人ノ所置ハ
世ハ支那兵ノ世ト爲リ居タルナリ此時ノ有様ヲ形容スレバ
日本人ノ所置ハ小學ノ女生徒ガ小笠原流ノ諸禮ヲ實地演習
スルノ態アリテ若々皆法ニ通ヒ此處フト云フ批評ナ下ダス
ベキ欠點ナケレド活氣モナク精神モナク何處ヤア物足ラ
スマウニテ人ノ情ヲ喫ブニ足ラザルガ如ク支那人ノ所置ハ
老練ノ藝取カ狂奔亂藉ノ間ナ周旋スルノ態アリテ其一舉手
一投足必ズシモ警備上ノ規則ヲ追フモノニアラズ間マ或ハ
其引ク處ノ長柄コテ酒杯ヲ倒シ一生ノ笑ナ催スガ如キ失策
モアフント雖ニ免ニ角ニ其容態ノ洒落ナル其過止ノ活潑ナ
ル前後左右ニ氣ヲ配リテ局ニ當リテ威ハズ練々トテ自カ
ルカハコレテ机上ニ論定スペカフズ唯其事局ノ性質如何ナ
見テ咸ヘ本生徒ナ善シトシ咸ハ藝妓ナ善シトスルノミ
今回ノ朝鮮事變ハ其端緒ナ去年十二月四日京城郵征局ノ開
業式ニ暨シ六日支那兵压闕ヲ攻メ日本人ナ屠戮シ日本公使
館ヲ攻メ七日竹添公使政ノ園ナ衛ヲ難チ仁川ニ逃クルニ至
リテ其頂戴ニ達セリ此報知ノ始メテ東京ニ達シタルハ同月
十三日ニシテ其翌日ハ日曜日ノ休暇ヨモ拘ハラズ内閣ノ臨
時總會議ハリダリト云ヘリ然レニ此事變ニ付キ我政府ハ何

井上參事院議官が蓬萊丸ニ搭ハ、二川ニ赴キタルハ實況観察ノ爲メニアモアランカト云々遂ニ其廿二日ヨリ井上外務相ニハ特派全權大使トシテ東京ヲ門出シタルガ別ニ護使ノ報知ヲ得タル日ナ距ルト實ニ十日ノ後ニ在リナリ井上大使ガ馬關ニ着セシハ廿四日ノ凌半十二時ナリシ兼テハ大使が馬關ニテ手間取リシハ果シテ何事ニ原因スルカ固ヨリ問テ猶豫スレバ全四晝夜ノ長ヤ亘ラントスル所ナリシ大使が馬關ニテ手間取リシハ果シテ何事ニ原因スルカ固ヨリ我輩ノ知ル所ニアラズ尤モ馬關ニリハ大使ノ護衛兵トシテ俄ニ小倉分營ノ兵若干ヲ引連レタリトノ風説アレバ威ハ夫等ノ爲メニアモアランカト云ヘラスクテ大使ガ仁川ニ着タルハ三十日ノ午後八時ヨリテ同夜上陸日本領事館ニ駐宿シ越エテ四日蓬萊丸ガ仁川ナ發シテ馬關歸航ノ途ニ就キタル時即ナ本年一月三日マテハ未だ大使ノ入京ナカリシ趣ナリ又馬關ヨリ引率シタル護衛兵ハ果シテ幾許ナリカ未タ其詳細ノ員數ナ聞カズト雖ニ元來小倉分營へ鎮臺兵二大隊ノ屯在スル所ナルガ故ニ既ニ其人員ニ限アリ何程大數ノ兵ヲ率ヒントスルモ千二百ヨリ以上ノ兵ハ事實上ニ於テ得ベカラズ故ニ井上大使一タビ馬關ニ過ギテ小倉分營ニ一兵ナシト仮定スルモ在韓ノ日本兵ハ公使館ノ護衛兵ト合併シテ大數千五百人ナ過グベカラズ若ハ大使ノ引率シタルハ單ニ小倉分營兵ノ一部分ナリシナフニハ合併ノ總數或ハ千人ニモ遠セザルヲナラン陸軍ノ用意ハ斯ノ如シ海軍ハ如何ト云フニ去ル三日蓬萊丸ガ仁川ヲ去ル時ハ其港内ニ比勘日進ノ兩艦アリシノミト聞ケリ

又今回ノ事變ニ際シ支那人ノ所置ナ見ルニ十二月六日竹添公使王覲ナ辞ニ歸リ七日京城ニ直去リタル後ハ國王以下朝鮮全政府ヲ率ケテ皆支那兵ノ手替ニ八道ノ草木一トシテ北風ニ摩カザルハナキ折柄此事變ヲ北京政府ニ報道スルモノ屯在スル所ナル手段アリシト見ニ在日本ノ支那官吏商人ニ至ルマテモ十二月十三日以前既ニ此事變ヲ知悉シ居タル由ナリ支那本國ヨリハ直ナニ二艘ノ軍艦ナ朝鮮ニ派遣シタリト云ヒ又四艘ヲ派シタリト云ヒ又三艘ヲ派シタリト云ヒ實際果シア何艘ノ支那軍艦在ルニ相違ナキガ如シ又其陸兵ノ如キモ前日ヨリ京城ニ駐在スル三處ノ兵營六七百ノ兵士ノ外吳大澂ハ五百ノ兵ヲ率ヒタリト云ヒ丁汝昌ハ二千ノ兵ヲ率ヒタリト云ヒ其總數既ニ何程コ達マタルカ明白ナラズト雖ニ過般南陽ヨリ支那兵ニ捕ヘラレ京城ノ支那兵營ニ護送セラレ實際ヲ目撃シテ仁川ニ歸リ來タリ吉松某ノ報道ニ依レハ京城内外ノ支那兵ハ六千人計リナラント云ヘリ此數果シテ其實ニ稱フヤ否ヤ固ヨリ知ルベカラズト雖ニ此吉松某ハ簽ア人夫頭ヲ爲ス人ナリト聞ケバマンザラ素人ノ監定トモ評シ難カルベシ又我井上大使が統カニ馬關ヲ發シタル其翌廿九日ニ當ニ支那ノ特派大臣吳大澂ハ星クモ護衛兵ヲ率ヒテ麻浦ナ渡ニ京城ニ入りタリト云ヘリ而シテ又上海ヨリノ電報ニ依レバ朝鮮國王ハ亂ナ避サテ支那ノ山海關ニ赴カソトスルノ風説アリト云ナド支那人ガ今回ノ擧動ノ如キモ公

朝鮮事變

法ニ照ラル道理ニ照ラシテハ固ヨリ世ノ批評ヲ免カレザルモノナリト雖ニ其迅速活潑ノ一點ニ至リテハ決シテ俄カコ輕侮スベカラザルモノアルガ如キ

今回ノ朝鮮事變ハ實ニ我日本國ノ興廢存亡ノ係ハル大切ノ事件ナリ今回ノ事變コレテ若シコレニ處スルノ法其宜シキチ失ハシカ我日本國ノ失フ所ハ決シテ一片ノ名譽ニ止マラザル也ク咸ハ名ニ積クニ其實ヲ以テスルノ恐ナキニアラザルベシ我輩ハ俯仰今昔ノ事ニ感スル所アリ聊カ記シテ我同胞兄弟ノ注意ヲ喚ハントスルナリ

○贈位の時　過般輝域にて虐待される故陸軍歩兵大尉磯林與三氏が送葬を近々營むに付て之特別に祭菜料と賜はる旨ありと又是迄陸海軍の尉官より贈位の典はあくりしる今度は特別を以て同氏へ位階を贈進せらるゝとの贈わり
○鈴木歩兵少佐　佐倉營所長鈴木歩兵少佐の御用ひて岡三

○出發 前横濱理事陳允頤氏は今度前公使黎庶昌氏の顧問日前上京をせしが故に、日々早朝より東京鐵道内の後備軍司令部へ出頭して事務を取扱ふよし

となり近々朝鮮國へ出張あす由支那人ハ附せり
○談判未だ始まらず 一昨夜在馬關特派通信員より左の電
報到達し候

一月八日午後八時三十分馬關機電報
三日蓬萊丸仁川ヲ立ツ時マヂハ未タ談判ハ始マヌ
去る六日蓬萊丸仁川より馬關へ入港したる趣ハ早速在馬關

特派通信員より電報あり又井上大使無事若槻との事並に仁川より詳細ある報道書を通信員自から落手したりとの事又けハ電報し來りたれども其他は何事も報し來ら走依て此方

より催促の電報を出せども一向満足ある返事は送り来ずともかしさ事なり在馬關の特派通信員ハ一日以來未だ履歴の醉が認めぬあらんと本社編輯員等の都推なり

○横須賀の人氣、静岡特別電報
一月九日午後一時二十分静岡特別通信局電報
朝鮮事件ニ付遠州横須賀ノ人氣非常ニ警戒シ有志者數十

人ハ萬一ノ際國ニ至サル爲ニ其團結ヲ爲シケリ又今回ノ被害者本多牧之輔ノ妻子ニ有志者ヨリ金八圓ヲ義捐セリ

を問は走達ふ人毎に金融通商況不振の嘆を嘆するのみありしが恰も迅雷般一聲に轟ひたる如く朝鮮事變が耳朶上るや人心俄々激動し不景氣の聲が全く消え去りて迹ある吾も人

も切歎腕し一旦事なるの日は國民の義務を盡さんと協同一致なし居る云々と同地の通信に見ゆ

し銀貨の融資より併せて同様產物の一等に位する生糸の景氣付により金融頗る好く各商とも需用を増し供給又不足を及ぼしより○培玉暴動以來警察の戒厳甚しく書吏一般又非番

なし又博徒は一揖して迹を見す○善光寺の御来は牛に幸か
れる信者の多く一日は賽額高は百圓以上あり○邊鄙る金融
の宜さ爲にや昨今非常に繁昌し絶て茶を置く娼妓もし○舊

自由黨國議員は朝鮮事變を聞し以來何か其筋（諭問せんと
目下奔走中ありと